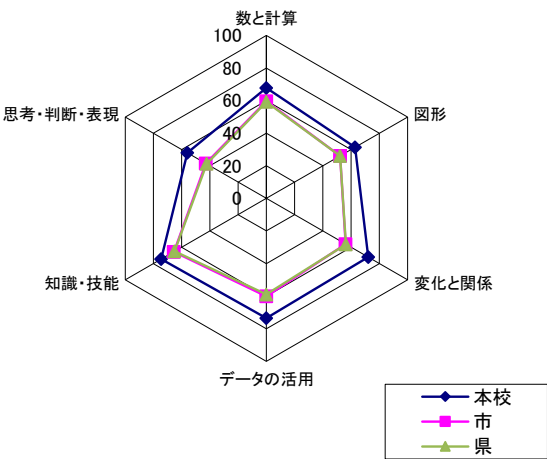


宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.8	59.7	59.2
	図形	62.8	52.1	52.1
	変化と関係	72.1	56.1	56.3
	データの活用	73.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	74.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	55.9	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、67.8%と市・県の平均より高い。 ○3ケタの計算や小数、計算法則などの問題で、市や県の正答率より15ポイント以上高い。大きい数の読み方では正答率は100%だった。 ●大きい数のしくみを理解する問題でのみ、市・県の正答率より15ポイント以上低かった。	・引き続き、基礎・基本的な計算を繰り返すとともに、数の大小を比較する問題に多く取り組ませたり数直線上で数の大きさを考える場面を設定したりするなど、数量の概念のさらなる定着を図る。
図形	平均正答率は、62.8%と市・県の平均より高い。 ○三角定規の角度や180度より大きい角の求め方などは市・県の正答数より10ポイント以上高かった。 ●複雑な図形の面積の求め方として正しいものを選ぶ問題では、県・市の正答率と同程度か少し低かった。	・面積の大きさや単位を理解するために、実物を使ったり大きさがイメージできるものと結び付けたりできるようにする。また、色々な図形の計算をこなし、面積の求め方の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、72.1%と市・県の平均より高い。 ○数量の関係を正しく読み取る問題では市の正答率より14.6ポイント、県の正答率より13.1ポイント高い。伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する問題では、市の正答率より24.4ポイント、県の正答率より22.1ポイント高かった。	・引き続き、2つの数量を比べる問題の確認と記述での解答の仕方を押えた指導をしていく。
データの活用	平均正答率は、73.5%と市・県の平均より高い。 ○折れ線グラフから変わり方を読み取ったり二次元表を正しく読んだりする問題など、ほとんどの内容で市・県の正答率より10ポイント以上高かった。	・引き続き、基礎・基本を押さえた指導をするとともに、理科や社会科で折れ線グラフや棒グラフが出題されたときも想起させ、発展的に考えられるようにする。